

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価」  
(最終評価)

大阪市立南中学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

◎本校は全校生徒数162名という小規模校である。（通常学級5、特別支援学級5）  
校区に繁華街もあり、外国籍の生徒や外国にルーツのある生徒は全体の50%を超えるにまで増加している。特別支援学級の生徒も増加しており、日本語指導、特別支援など個別の支援を要する生徒は全体の6割近くになる。

支援を要する生徒の課題は様々で、個に応じた指導の充実を図っていかなければならない。さらに日本語の支援が必要な保護者も多く、学校からの連絡にも時間がかかる場合が多い。

◎校内では様々な取組みの成果もあり、生活指導面では一定、落ち着いている。しかし、家庭環境の面では、食事もまともにとれない、夜間こどもだけで過ごしているなど、課題が多い。毎年、虐待や家出などで緊急保護されるケースもあり、家庭の教育力が脆弱で、学校教育において担う部分が多くなっている。

◎学力の定着という面では、家庭での学習習慣の確立ができていないことや、個別の支援を要する生徒が多いこともあり課題も多い。学力の定着のため、一人一台のパソコン等のICT機器や「学びサポーター」などを有効に活用した原学級への入り込みなど、個別指導をさらに充実させていく必要がある。「個別最適な授業づくり」をめざして、校内外での研修を通じて、教員の授業力の向上を進め、学び続ける教員を育成していく。また、放課後学習会の体制を整えたり、ルビうち教科書の作成、一定の日本語力が習得できた生徒に対しては、学習言語の習得をめざしてJSLの活用や放課後学習会を進めていく。

◎体力面では、運動場の狭さの影響や、地域内に公園等も少ないこともあり、運動できる場が不足している。体育の授業中の基礎体力を向上させるトレーニングを継続し、体力の向上をはかっている。

◎生活面においては、関係諸機関とも積極的に連携し、不登校・問題行動等の未然防止に力を入れている。またこどもサポートネット事業のスクリーニング会議において、支援が必要な保護者・生徒に対する具体的な方策を検討し、関係部署が連携して、丁寧寄り添い、将来展望を持たせるよう教育活動を進めている。

◎学力・体力面、生活面、ともに、自己に対する自信が持てない生徒に対しては、学校行事や普段の学校生活において、それぞれの目標に向かって取り組ませ、達成感を持たせることで自己肯定感の向上や自信につなげている。このような課題を解消するためには、教職員が生徒に向き合う時間をさらに増やしていかなければならない。

◎最後に、本校は校区が広く連合振興町会が8つあるが、近年、生徒数の確保が課題になっている。校区小学校の生徒数も減少傾向にあり、学校選択制によりさらに生徒数が減っている現状もある。地域の方や小学生の児童・保護者に本校の取り組みとその良さを積極的にアピールし、学校選択制において、「選ばれる学校」にしていかなければならない。

◆1年生51名内訳：南小25名、高津小17名、中央小3名、開平小3名、南大江2名、他1名

◆生徒数：1年51名、2年48名、3年63名 162名

◆教員数：教科18名、日本語教室3名、特別支援学級7名、養護教諭1名

◆サポーター：8名

◆部活動：水泳、体操、バスケットボール、サッカー、音楽、美術、パソコン

**【安全・安心な教育の推進】**

- 校内アンケート調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を98%に保つ。
- 校内アンケート調査における「あいさつ、服装、頭髪などきちんとできている」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を95%に保つ。
- 校内アンケート調査における「学校生活は楽しい」の項目に、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を90%に保つ。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 校内アンケート調査における「授業に集中して、まじめに学習に取り組んだ」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を85%に保つ。
- 校内アンケート調査で「授業が分かりやすい」の項目に肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を90%に保つ。
- 校内アンケート調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を80%に保つ。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 校内アンケート調査における「ICTを活用した授業展開ができる」に対して、肯定的に回答する教員の今後4年間の平均値を80%以上を保つ。
- 校内アンケート調査における「ゆとりをもって業務に取り組むことができる」に対して、肯定的に回答する教員の今後4年間の平均値を80%以上を保つ。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標（中学校）

・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を**78%以上にする**。

(R4年度80% R5年度80% **R6年度77%**)

・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R4年度6.25% R5年度8.57% R6年度9.38%)

・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R4年度18人中2人 R5年度15人中2人 R6年度16人中5人)

### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標（中学校）

・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を**55%以上にする**。(R4年度49% R5年度57% **R6年度54%**)

・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より**0.02ポイント向上させる**。

(R6年度2年生 国語0.91⇒0.96 数学0.89⇒0.91)

(R6年度1年生 国語0.73 数学0.74 )

・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を**57%以上にする**。

(R4年度53.3% R5年度54.9% **R6年度56.52%**)

・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を**66%以上にする**。

(R4年度51% R5年度58% **R6年度 65%**)

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標（中学校）

・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の**50%以上にする**。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

(R6年度達成した日数1日 0.7%)

・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を**70%以上にする**。

(R6年度 65%)

・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を**45%以上にする**。

(R5年度 40% **R6年度 44%**)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

ほとんどの生徒は「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考えているが、最も肯定的に回答している割合が8割前後で推移しており、意識がさらに向上するよう、安心して登校できる学校づくりに引き続き取り組んでいきたい。

9割を超える生徒が「学校が楽しい」と肯定的に回答している一方で、不登校生徒の在籍比率は大きく変わらないものの、不登校人数は増加傾向となっている。今年度3学期から「スペシャルサポートルーム（SSR）」を開設し、学校で少しの時間でも安心して過ごしてもらえるような環境を整えた。次年度は、市教委のSSR設置支援授業が活用できれば、さらに拡充を図っていく計画である。

日々の生徒たちの様子を見ると、アンケートの結果以上に、授業だけでなく行事や清掃活動といった学校での生活を懸命に取り組む姿勢は、他校にも自慢できる良いところである。安全・安心な教育の推進をするにあたり、問題行動の未然防止にも取り組んでいる。生活背景が見えにくい家庭も多く、学校だけでは対応しきれない場面も多いが、学級担任を中心に家庭訪問を繰り返し行い、学校と家庭との関係の構築、連携。維持に努め、スクリーニング会議・ケース会議を有効に活用し、個別の具体的方策を検討するなど状況の改善を引き続き図っていく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度も海外からの編入生が多く、外国籍・外国にルーツのある生徒が全体の6割弱にまで上昇し、他にも何らかの支援を要する生徒も増加傾向であった。全体授業で学力向上支援ができればよいが、実際には個人の特性や集団の状況、言葉の壁など考慮する内容も多岐にわたり、個別での対応が必要な場面も多い状況となっている。その中でも、教職員は授業改善に取り組み、「話し合う活動を通じて、考えを深めることができる」と最も肯定的に回答する割合は教育振興基本計画の目標値より大幅に高い値が出ている。また、授業はわかりやすく集中して取り組んでいるといった前向きにとらえる生徒がほとんどなので、学習方法の工夫や取り組み時間の確保など、学力向上への伸びしろは十分にあると考えている。体力面についても、運動できる場所は少ないが、体を動かすことについて肯定的にとらえている生徒が多いので、方法などをうまく伝え改善を図っていく。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末を活用した日数や場面は、昨年度より大幅に向上させることができた。学習する場面での使用だけでなく、「心の天気」といった自分の気持ちについて振り返り、考えるための活動にも使用しており、自分自身を成長させることのできるひとつの道具としての活用が浸透している。今後も適切かつ適度な利用をしていきたい。

教職員の負担軽減につながるよう、学校運営を効率よく進め、時間外勤務時間を削減していく必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

年度目標		達成状況
<p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を<b>78%以上にする。</b> (R4年度80% R5年度80% R6年度77% <b>R7年度82%</b>)</li> <li>・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (R4年度6.25% R5年度8.57% R6年度9.38% <b>R7年度8.00%</b>)</li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 (R4年度18人中2人 R5年度15人中2人 R6年度16人中5人 <b>R7年度13人中1人</b>)</li> </ul>	B	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「人権・平和」の取り組みや学校行事などを通じて、相手を思いやる気持ちの育成を図るとともに、情操が豊かで「いじめ」の起こらない、生徒が「安心して登校できる」学校づくりを目指す。</li> <li>○様々な体験活動を取り入れることで学校生活を充実させ、生徒アンケートにおける「学校が楽しい」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を<b>9割以上にする。</b> (R5年度87% R6年度92% <b>R7年度95%</b>)</li> <li>○細やかな状況観察、声掛け、教育相談、家庭訪問などで「いじめ」や「不登校」を未然に防ぐだけでなく、早期発見、改善につなげる。</li> </ul>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全安心な教育環境の充実】</p> <p>◎「いじめ（いのち）について考える日」「いじめアンケート」を実施し、いじめの未然防止、早期発見の取り組みの徹底を図る。（1-1 いじめへの対応）</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎年2回の教育相談週間の実施と、5月に「いじめ（いのち）について考える日」を設定し、学期に1回以上「いじめアンケート」を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全安心な教育環境の充実】</p> <p>◎校内の連携を強化し、関係部署と連絡を密にとり、不登校になる生徒の未然防止と、不登校生徒の改善策を図る。（1-2 不登校への対応）</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎こどもサポートネットのスクリーニング会議を学期に1回以上行い、不登校の未然防止や早期発見・解決に努める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>◎生活指導関連の外部講師の招聘や各学年での体験活動の充実を図ることに加え、1年生で大阪市内の文化施設を訪ねる「地域探訪」、また2年生で「大阪城周辺フィールドワーク」と「職場体験学習」を実施し、人権感覚を養う。1・2年合同で一泊移住を実施し集団で生活をする上で、必要なルール・マナーを学ぶ。(2-3 人権を尊重する教育の推進)</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎校内アンケート調査において、「外部講師を招いた講義や体験活動が充実していた」と回答する生徒の割合を<b>90%以上にする。(R7年度95%)</b></p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①② 関係機関と連携をとりながら対応に当たっているが、数値の大きな改善には至っていない。</p> <p>取組内容③ 一泊移住、職場体験学習は実施できた。後半で1・2年生はそれぞれ校外学習を計画・実施した。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめはいけないことだ」の回答の「そう思う」が82%を超えて、目標数値を達成した。安心して過ごせる学校を作っていくため、更なる意識の向上を継続的に取り組んでいく。</li> <li>・関係機関とつながることで改善できた事例もあるので、情報交換を密にして連携を取りながら対応に当たる。</li> </ul>	

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

## 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標		達成状況
<p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を<b>55%以上にする</b>。(R4年度49% R5年度57% R6年度54% <b>R7年度58%</b>)</li> <li>・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より<b>0.02ポイント</b>向上させる。 (<b>R7年度3年生 国語0.91⇒0.96⇒0.94 数学0.89⇒0.91⇒0.91</b>) (<b>R7年度2年生 国語0.73⇒0.67 数学0.74⇒0.84</b>) (<b>R7年度1年生 国語0.88 数学0.91</b>)</li> <li>・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を<b>57%以上にする</b>。 (R4年度53.3% R5年度54.9% R6年度56.52% <b>R7年度65.4%(大阪市60.3%)</b>)</li> <li>・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を<b>66%以上にする</b>。 (R4年度51% R5年度58% R6年度65% <b>R7年度57%</b>)</li> </ul>	B	
<p>学校の年度目標</p> <p>○確かな学力を育むために指導と評価を一体化させ、生徒の学習状況に応じて評価を指導にフィードバックさせることで、校内調査において「授業が分かりやすい」の項目に肯定的に答える生徒の割合を<b>8割以上にする</b>。(R6年度86.7% <b>R7年度91.9%</b>) ○校長戦略予算を活用した全生徒対象の英検・漢検を実施し、多くの生徒に達成感を味わわせる。 ○日本語指導の必要な生徒の指導体制を充実させ、日本語能力アップを図り、全体的な学力の底上げにつなげる。 ○運動を苦手とする生徒に基礎体力をつけさせ、全国体力・運動能力調査において、大阪市平均との差を昨年度調査より縮める。 (体力合計点 R6年度 男子32.54(大阪市41.10) 女子41.64(大阪市47.51)) (<b>体力合計点 R7年度 男子32.95(大阪市41.69) 女子37.87(大阪市48.14)</b>)</p>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎特別課題検討委員会(学力向上委員会)において、教務部と連携し、研究授業や相互授業参観、課題に応じた学力向上の取り組みの考察などを推進する。 (4-1 言語活動・理数教育の充実)</p> <p>----- 【指標】</p> <p>◎相互参観を一人3回以上行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎教科指導を向上させ、個に応じた指導を充実させる。校長経営戦略支援予算を利用し、英検、漢検を校内で全学年実施する。( 4-3 英語教育の充実 )</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎校内アンケート調査で「授業が分かりやすい」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を8割以上にする。(R5年度90% R6年度86.7% <b>R7年度 91.9%</b>)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>◎日本語指導の充実に向けて、教育環境を整える。( 2-5 多文化共生教育の充実 )</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎日本語指導の必要な生徒に対し、能力に応じた日本語能力検定試験を実施する。 <b>(N1⇒1/1合格 N2⇒2/4合格 N3⇒1/2合格 N4⇒2/4合格)</b></p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>◎バランスよく基礎体力と運動能力を高めるためのトレーニングを継続して行う。また体力・運動能力調査を全学年で実施し、全体的な底上げを図っていく。 ( 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進 )</p> <p>-----</p> <p>【指標】</p> <p>◎体力・運動能力調査で、全国平均、大阪市平均を上回る種目数を昨年度より増やし、体力合計点で全国平均、大阪市平均との差を縮める。 (R6年度は男子は0種目、女子は2種目で大阪市平均を上回った) ⇒<b>(R7年度 男子1種目(上体起こし)大阪市、全国平均を上回った 女子0種目)</b></p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① 研究授業を計画通り実施し、2学期に相互参観週間および研究協議を伴う研究授業の全体研修を実施した。</p> <p>取組内容② 2学期に漢検の全員受験、英検の3年生全員受験、3学期に英検の1・2年生全員受験を実施した。また、検定受験に向けての取り組みとしてステップアップデーを全学年で活用した。</p> <p>取組内容③ 12月7日の日本語能力検定試験に11名が受験した。</p> <p>取組内容④ トレーニングの負荷を強めつつ、効率よく体力が向上するよう取り組んでいる。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の研修機会を確保し、授業改善に引き続き取り組んでいく必要がある。ほとんどの生徒が授業が分かりやすいと前向きな回答をしており、興味・関心を持つことができる授業の工夫であったり、学力の向上につながる実践をしていきたい。体力面に関しては継続してトレーニングに取り組む必要がある。</li> <li>・校長経営戦略支援予算等を活用し、各種検定試験の受験機会の確保を引き続き行っていきたい。</li> </ul>	

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

年度目標		達成状況
全市共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<b>50%以上にする</b>。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 (R6年度達成した日数1日 0.7% <b>R7年度達成した日数34日 23.3% (1月末時点)</b>)</li> <li>・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を<b>70%以上にする</b>。 (R6年度 65% <b>R7年度 62.5% (1月末時点)</b>)</li> <li>・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を<b>45%以上にする</b>。 (R5年度 40% R6年度 44% <b>R7年度 45.16% (1月末時点)</b>)</li> </ul>	B
学校の年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を活用した授業の校内外の研修に積極的に参加する。</li> <li>・学習者用端末を活用する授業等を前年度より増加させる。 (R6年度 43.8% <b>R7年度 65.0% (1月末時点)</b>)</li> <li>・教員の時間外勤務時間を前年度より減少させる。 (R5年度 40時間43分 R6年度 39時間25分 <b>R7年度 40時間49分 全市平均より3時間47分超過 (1月末時点)</b>)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】	◎教員のICT活用能力を向上させる。(6-1 ICTを活用した教育の推進)	B
【指標】	ICT関連の校内研修会を年3回実施する。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	◎各サポーターの人材を充実させ、教職員の時間外勤務を減少させる。 (7-1 働き方改革の推進)	C
【指標】	◎校内アンケート調査で「ゆとりをもって業務ができた」において、肯定的に回答する教職員の割合を80%以上にする。(R5年度88% R6年度56% <b>R7年度75%</b> )	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① ICT関連の校内研修会を各学期1回ずつ計画・実施した。

取組内容② ゆとりをもって業務にあたることができた教職員もいる一方で、昨年度より2時間程度時間外勤務が増加している部分が課題である。

## 次年度への改善点

- ・学習者用端末が更新され、あらゆる場面での活用が可能となっている。授業での活用だけでなく家庭でも自学自習することができるツールも導入されているので、今後も活用率を上げることは可能と考えられる。活用率を上げることも大切だが、生徒の成長にどのようにつなげていくことができるかが課題である。
- ・大阪府教育委員会が策定した「学校園の働き方ビジョン」を参考にしながら、業務の削減や効率化に取り組み、長時間勤務を少しでも短縮していきたい。

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

本年度の自己評価のとおり、評価結果はおおむね妥当である。

## 2 年度目標ごとの評価

- 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】
- 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】
- 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

上記の各最重要目標の年度目標とも、達成状況や進捗状況の評価はおおむね妥当である。

すべての生徒を含めたテスト結果からは実態が見えにくい部分はあるが、結果と分析や次年度への改善点についても自己評価の通りで、さらなる改善や向上を目標に取り組んでほしい。

## 3 今後の学校運営についての意見

- 現在取り組んでいる活動を大切に、今後も子どもたちの育成を続けてほしい。
- 学校生活を通じて子供たちのなかで多文化共生への理解が浸透しており、この部分を強みとして生かしてほしい。日本語指導に限らず、子どもたちに必要な力を明確にして教育活動に取り組んでほしい。